

農林水産部 若手勉強会の活動

～ みどりの食料システム戦略の実現に向けて ～



農林水産部若手勉強会とは

農林水産部では、沖縄県内における農林水産業・食品産業の振興に向けて、様々な業務に取り組んでいます。各職員が現在担当している業務だけでなく、自身の興味がある分野を中心に、沖縄の農林水産業・食品産業全般への理解を深めていくことが、より一層現場に寄り添った施策の実現につながっていきます。このような観点から、若手職員が沖縄の農林水産業の現状、課題、特徴等への理解を深めることを目的として、「農林水産部職員自己研さん会（通称「若手勉強会」）」を開催しています。

令和5年度の活動

令和5年度は、まず農林水産業の現場への理解を深めていくため、家畜排せつ物や食品残さ等を活用しバイオガス、肥料等を製造する八重瀬町バイオガスプラント、県内の豚肉、牛肉等の流通拠点施設である沖縄県食肉センター、水産物の卸売を行う糸満漁港新市場などでの現地研修を行いました。参加した職員からは、「バイオガスプラントと食肉センターで行われていた食品残さ活用の取組や、新市場での衛生管理の取組を他地域でも進めることができればより良いのではないかな」などの感想がありました。



食肉センターの見学



卸売市場の見学



バイオガスプラントの見学

グループワーク

「みどりの食料システム戦略の実現に向けて」

若手のうちに自ら企画を行い主体的に業務に取り組む経験を積むことも重要であることから、初めての試みとして、有志の若手職員によるグループワークの取組も行いました。

農林水産省では、将来にわたって持続可能な農林水産業を実現するため、2050年までに「化学肥料の使用量を30%低減」、「化学農薬の使用量を50%低減」などの目標を掲げた「みどりの食料システム戦略」を策定し、関連する取組を推進しています。中長期的な、若い世代による将来を見据えた取組が求められていることから、この戦略の実現をグループワークのテーマとして設定しました。

そして、若手職員が戦略についてグループごとに議論しながら質問事項を整理し、有機JAS認証や特別栽培農産物認証（※）を取得された生産者の方、有機農産物を取り扱っている飲食店の方など、戦略に関連する取組を実践されている方へインタビューを行いました。「化学農薬の代わりに『スワルスキーカブリダニ』などの天敵昆虫を活用している」といった具体的な取組内容のほか、「栽培に手間がかかる一方で販売価格は上がらない」、「有機農産物の認知度は少しずつ高まっているのではないかな」といった課題や将来への展望などを伺うことができました。伺った内容はグループで整理し、

戦略の内容と併せて資料にまとめました。



有機農産物を取り扱う
「浮島ガーデン」へのインタビュー



グループでの議論の様子



「識名農園」への
インタビュー



作成した資料①

おきなわオーガニック産地育成協議会
(有機農業推進総合対策事業活用)

取組概要 取材日：R6.1.12 (金)

《取組品目》 パナナ (キャンベディッシュ系)

沖縄県産有機農産物の生産力向上や供給体制の構築を目指し、研修会やオーガニックライフEXPOへの出展、オーガニックエコフェスタ (米養価コンテスト) への出品を実施。

普及に向けて

○有機農業に取り組むメリット

- ・ 食材高騰の影響を受けにくい
- 有機農業の理解増進に向けて必要なこと
- ・ 消費者が分かりやすい **認証制度へ整理**
- ・ 慣行農業との作業体系の違いなどに関する **農業教育**
- ・ 「今日は○○の日だから有機農産物を食べよう♪」といった **購買意欲を高める動機付けの推進**

○みどり戦略の目標「耕地面積に占める有機農業の割合100万ha」達成に必要なこと

- ・ 有機農業で利用できる **栽培技術の開発**
- ・ 販売促進等の **出口戦略** に関する支援

作成した資料②

土どう宝協議会 (糸満市)
(みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート活用)

取組概要 取材日：R5.12.5 (金)

《取組品目》 キュウリ

BLOF理論 (生態系調和型農業理論) に関する研修を実施し、土壌診断、太陽熱養生処理、納豆菌・酵母菌の活用など、減農薬、減化学肥料につながる取組を実践。

普及に向けて

○減農薬・減化学肥料を実践するメリット

- ・ 減農薬の取組を行うことで、薬剤散布作業の **重労働から解放** されることは大きな利点。

○取組のきっかけ

- ・ 「有機」という点にそこまでこだわりはなかったが、これまでの栽培手法では上手くいかないと感じたときに、土壌診断を活用し減農薬、減化学肥料の新しい方法を試してみようと考えた。

⑥



パネル展示の様子

広く一般の方に「みどりの食料システム戦略」について知っていただくため、作成した資料については沖縄総合事務局HPへ掲載しているほか、パンフレットとして配布を行っています。また一部についてはパネルの形にし、当局庁舎1階の「行政情報プラザ」

**パンフレット配布、
パネル展示を行います!**

グループワークに参加した職員からは、「若手だけで直接話を聞かに行くのはとても良い経験になった」、「自ら企画を形にいくことで、普段からどのように業務に取り組むべきか、何を意識すべきか考えるきっかけとなった」といった感想がありました。

お問合せ先
農林水産部 農政課
☎098-866-1627

※化学農薬と化学肥料の不使用又は使用量削減に関する認証。詳細は群星2023年9・10月号で紹介していますのでこちらの二次元コードからご覧ください。

作成した資料はこちら↓

南城市役所等において展示を行いました。今後も様々な場所で活用いただければと考えておりますので、パンフレット配布、パネル展示のご要望などございましたら、お気軽にお問合せ先までご連絡ください。

有機農業を始めたきっかけ

有機農業のメリットは、化学農薬や化学肥料を使わずに育てられることです。また、消費者は安心して食べられる野菜や果物を食べたいという思いから、有機農業に取り組んでいます。

慣行栽培から有機農業へ

慣行栽培から有機農業へ移行するためには、土壌診断や太陽熱養生処理などの技術が必要になります。また、有機農業の生産力向上や供給体制の構築を目指しています。

病虫害の対策は?

有機農業では、化学農薬を使用せず、自然の力を借りて病虫害を防ぐことが重要です。例えば、天敵の導入や、薬剤散布のタイミングを工夫することなどが有効です。

どんな農産物を育てているの?

ハウスや畑で、トマト、キュウリ、パナナ、イチゴ、ブルーベリー、アスパラガス、アボカド、リンゴ、梨、桃、みかん、柚子、柿、栗、落花生、大豆、小麦、米、そば、そば麦、雑穀、野菜、果物、加工食品、化粧品、日用品など、様々な農産物を生産しています。

作成した資料③